

第1回 木曾三川下流域自然再生検討会 議事概要

日時：平成21年2月16日（月） 9:30～12:00

場所：木曾川下流河川事務所 1F 会議室

1. 開会

2. 挨拶（木曾川下流河川事務所長）

3. 委員紹介

4. 議事

（1）設立趣旨（案）及び検討会規約（案）等について

- ・ 「設立趣旨（案）」、「規約（案）」の説明後、内容の確認を頂き案をとることで了承された。
- ・ 本検討会の座長は、規約に基づき事務局より藤田委員を選任したいと説明があり了承された。

（2）流域の概要と木曾三川下流域の河川環境について

「流域の概要と木曾三川下流域の河川環境について」の説明を受け、質疑がなされた。主な意見などは以下のとおりである。

[主な意見など]

○木曾三川流域・下流域の概要について

- ・ 中流・上流ダム群の年間の堆砂データを提示して欲しい。
- ・ 地盤沈下量は、他の流域に比べて大きいのか。
- ・ 水田面積割合の変化が少ない。実感として水田は減少している印象がある。
- ・ 水質の環境基準を満足していない支川があるが、推測でもいいので理由を説明してほしい。
- ・ 伊勢湾で貧酸素水塊が発生した時の木曾三川の状況はどうであったか。

○木曾三川下流域の河川環境について

- ・ 平成15年から実施されてきた自然再生事業の実施箇所、効果、維持管理の実施状況等のデータを提示してほしい。
- ・ 木曾三川下流域の自然環境は、揖斐川でワンド・ヨシ原、木曾川でケレップ水制周辺の多様性、長良川で河口堰の新たな湛水域（“長良湖”）がポイントとしてあげられる。特に、この湛水域について、自然再生として何ができる

かがポイントである。

- ・多度川と肱江川は隣接する河川であるが、その河相は全く異なる。河川の環境の特殊性を活かした自然再生事業が必要である。
- ・自然再生事業では、行政と住民だけではなく、行政が窓口になり住民間の活動を協働するような連携・協働による取り組みが不可欠である。
- ・物理環境を自然に戻すだけでなく、外来種対策の観点も必要である。このためにも、住民との連携・協働は重要である。

(3) 今後のスケジュール（案）

「今後のスケジュール（案）」の説明を受け、以下の質疑を頂いた。なお、本検討会の第2回は3月23日（月）に開催する予定としている。

[主な意見]

- ・本日の意見について、途中段階であっても、各委員への資料送付や個別説明などを行うと、次回の検討会で議論がしやすい。

5. 現地視察

下記の箇所等について現地視察を実施した。

- ・ヨシ原再生箇所（長良川）
- ・千本松原（長良川）
- ・ケレップ水制群間のワンド（木曽川）
- ・水辺の楽校「水郷の森」（木曽川）
- ・干潟再生箇所（木曽川）
- ・城南干潟（揖斐川河口）

6. 閉会

以 上